

広島県中小企業家同友会の映画上映会

みんな見に来たらええやん

広島県中小企業家同友会三原支部は、地域のさまざまな方と一緒に働く環境づくりを目指しています。「障害」や「貧困」という重たいテーマではありますが、上映会とパネルディスカッションをとおして地域での雇用の在り方を考えていこうと企画しました。

日時 平成29年7月29日(土)
場所 三原リージョンプラザ大ホール
10時00分 開場
10時30分 「みんなの学校」上映開始
12時15分 上映終了
終了後すぐ パネルディスカッション
「多様な人材を雇用する会社づくり」

- 大植 栄さん
広島県中小企業家同友会 障害者問題委員会委員長
 - 三原博光さん
県立広島大学保健福祉学部人間福祉学科 教授
 - 宗藤久美さん
(社福)亀甲会 養護老人ホーム亀甲園
- 12時45分 終了予定

チケット：大人(高校生以上)500円(午前午後とおし券・片方だけ鑑賞しても同じ料金)・
中学生以下と障害者手帳をお持ちの方無料。

チケット販売場所：三原リージョンプラザ・フジグラン三原店・うきしろロビー・
三原市芸術文化センターボボロ・NPO 法人ちゃんくす



同時上映
13時30分 「さとにきたらええやん」上映開始
15時15分 上映終了

当日は就労支援施設製品の販売会やパンやお弁当などの軽食の販売もあります。どうぞお越し下さい!

主催：広島県中小企業家同友会三原支部 共催：三原リージョンプラザ指定管理者(株)サービスセンター
後援：三原市 三原市教育委員会

問合せ先：NPO 法人ちゃんくす 0848 (36) 6525

※わいわい工房でもチケットを販売しております! (問い合わせ先：0848-63-1588 担当田中・手嶋)

<みんなの学校 解説>

不登校ゼロを目指す大阪市立南住吉大空小学校の取り組みを紹介し、第68回文化庁芸術祭大賞など数々の賞を受賞したテレビドキュメンタリーを劇場版として再編集した作品。大阪市立南住吉大空小学校。ここでは、発達障害を抱えた子、自分の気持ちをうまくコントロールできない子など、いわゆる特別支援の対象となる児童も同じ教室で学ぶ。大空小学校が目指すのは不登校ゼロ。教職員、保護者、地域の大人たちだけでなく、子ども同士も一緒に「みんながつくる、みんなの学校」のスローガンに取り組む姿を長期にわたり取材。そこには、ごく普通の公立小学校が実践する濃密な教育の姿があった。

<さとにきたらええやん 解説>

いつでもおいでや。 子どもも大人も集まるみんなの“さと”

大阪市西成区釜ヶ崎。“日雇い労働者の街”と呼ばれてきたこの地で38年にわたり活動続ける「こどもの里」。“さと”と呼ばれるこの場所では0歳からおおむね20歳までの子どもを、障がいの有無や国籍の区別なく無料で受け入れています。地域の児童館として学校帰りに遊びに来る子や一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子だけでなく、子どもの親たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、貴重な地域の集い場として在り続けてきました。

本作では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも力強く成長していく子どもたちと、彼らを支える職員たちに密着。子どもたちの心の揺れ動きを見つめながら、子どもも大人も抱えている「しんどさ」と格闘する人々の切実な姿を描き出しました。



わたしはあなたの味方やで！ 現在、求められている“居場所”の原風景

人と人が関わり合うコミュニケーションが希薄になり、地域のコミュニティが失われつつある現在の日本。大阪市

西成区釜ヶ崎は今でも日雇い労働者が集う喧噪の街ですが、昨今ではあまり見られない、地域内のコミュニケーショ

ンが現存している街でもあります。

「こどもの里」はそんな釜ヶ崎の子どもたちにとって大切な“居場所”です。

子どもたちを巡る状況が急激に変化している今、あらためて注目されている「こどもの里」の取り組みは、これから

の社会を歩む私たちに子どもも大人も安心できる“居場所”とは何か、問いかけています。

ボランティア参加から完成まで7年ー

大阪在住・重江良樹監督の初監督作品

**SHINGO★西成の音楽は
人々を鼓舞し、あたたかく包み込む**

「こどもの里」の活動を通して、画面いっぱいにあふれ出る子どもたちや、釜ヶ崎という街の魅力を捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。

ボランティアとして「こどもの里」に通い始めてから丹念に取材し、初監督作品として本作を完成させました。

音楽は地元・釜ヶ崎が生んだヒップホップアーティスト、SHINGO★西成。ストレートで飾らないメッセージの中に、街で生きる人々への熱い思いが詰まったSHINGO★西成の楽曲が、生きることそのものを力強く肯定し、映画全体をあたたかく包み込みます。



釜ヶ崎とこどもの里

KAMAGASAKI AND KODOMO-NO-SATO

大阪市



釜ヶ崎

高度経済成長を支えた、国内最大の日雇い労働者の街



大阪市西成区にある、日雇い労働者らが集う国内最大規模の街。「あいりん地区」とも呼ばれ、労働者向けの簡易宿泊所（ドヤ）が軒を連ねている。

高度経済成長期にはたびたび労働者たちによる暴動（実際は差別に対する抗議行動）が発生する等、治安の悪いイメージがあった釜ヶ崎。長年、土木・建設現場に働き手を送り出してきたが、昨今では労働者の高齢化、不況による求人激減、路上生活者や生活保護受給にまつわる問題など、さまざまな課題が山積みとなっている。しかし、地域に多数あるNPO団体や宗教団体による炊き出し等が頻繁に行われるなど、地域のネットワークが今現在も色濃く残る街でもある。



こどもの里

釜ヶ崎の子どもたちに健全で自由な遊び場、居場所を



1977年、釜ヶ崎の子どもたちに健全で自由な遊び場を提供したいとの思いから、子どもたちの遊び場（ミニ児童館）「子どもの広場」としてスタート。

1980年に現在の場所で「こどもの里」を開設以降、放課後の子どもたちの居場所としてだけでなく、生活の不安定さに揺れる子どもたちや親たちのサポートをし続けている。家庭環境によって行き場のない子どもたちのニーズも高まり、緊急一時保護の場、生活の場の提供も。

2013年、大阪市の「子どもの家事業」を廃止を受けて存続が危ぶまれたが、「特定非営利活動法人（NPO法人）こどもの里」を設立し、現在も変わらず、こどもが安心して遊べる場の提供と生活相談を中心に、常にこどもの立場に立ち、こどもの権利を守り、こどものニーズに応じる、をモットーに活動を続けている。

こどもたちの
遊びと学び
生活の場です

- 誰でも利用できます。
- 子どもたちの遊びの場です。
- お母さん お父さんの休息の場です。
- 学習の場です。
- 生活相談 何でも受け付けます。
- 教育相談 何でもききます。
- いつでも宿泊できます。
緊急に子どもが一人ぼっちになったら…
親の暴力にあったら…
家がいやになったら…
親子で泊まる場所がなかったら…
- 土・日・祝もやっております。
- 利用料はいりません。

「こどもの里」沿革

1977年：聖フランシスコ会『ふるさとの家』の2階の一室で「子どもの広場」が始動

1980年：「守護の天使の姉妹修道会」が活動を引き継ぎ、現在の場所に「こどもの里」を開設

1996年：大阪市「子どもの家事業」として認可

1999年：宗教法人「カトリック大阪大司教区」が事業引き継ぎ

2001年：大阪市家庭養護寮として指定

2010年：小規模住居型児童養育事業「こどもの里ファミリーホーム」へ移行

2013年：大阪市が「子どもの家事業」を廃止、「大阪市留守家庭児童対策事業（学童保育）」へ移行

2015年：「特定非営利活動法人（NPO法人）こどもの里」を設立

